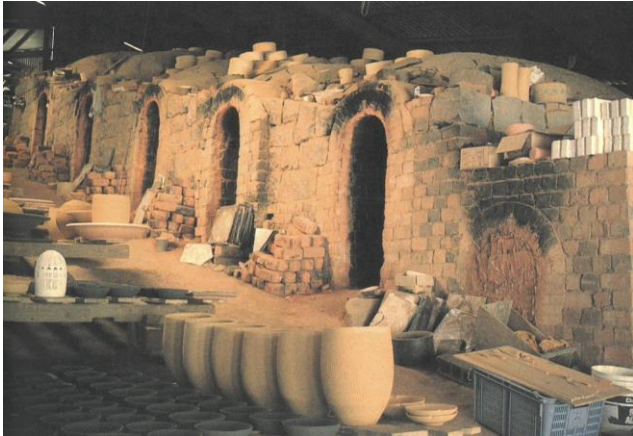


こいしわらやき 小石原焼

所在地/朝倉市
指定/無形文化財



小石原焼の窯



小石原焼の皿

今から約 350 年前より、^{とうほうむらこいしはら}東峰村小石原では多くの「やきもの」が作られました。小石原には、それに必要な粘土と焼くための木材が豊富にありました。「やきもの」とは土をこねて、形にして、高い温度で焼いて硬くしたものです。わたしたちの暮らしで使う器（茶碗やお皿、料理のときに使うすり鉢、水を入れる大きな甕など）のほかに、お茶を飲むための特別な器(※1)も作られました。

特に、簡単な模様(※2)がつけられた茶碗やお皿などは、安くて丈夫なのでわたしたちの暮らしの中で使える器として、日本全国だけではなく海外にも知られるようになりました。また、お茶を飲むための特別な器は、日本全国のお茶が好きな人々に愛され、「高取焼」などとも呼ばれ、福岡県のブランド品になりました。

今ではこの小石原で「やきもの」を作る家は 50 軒ほどになり、その多くはわたしたちの暮らしの中で使う器を作っています。一方で、小石原焼の昔ながらの作り方で、今までとは異なる新しい「やきもの」を作る人もおり、春と秋に「民陶むら祭」が行われ、全国からファンが訪れます。

※1 お茶を飲むための特別な道具：茶入、茶壺など

※2 簡単な模様：「飛びがんな」と呼ばれる技術や白や緑などの「うわぐすり」が有名

【もつとくわしく調べたい】

○小石原焼伝統産業会館 東峰村小石原 730-9

TEL 0946-74-2266